

# 保育園での異文化体験エピソード



## その16 母国の言葉を大切にする



イラスト・うつろあきこ

いつもは長時間の保育を利用しているのに、曜日によって早く帰る、ブラジル国籍の子どもたちが数人いました。

保護者に理由を聞いたところ、母語であるポルトガル語の塾に通っているとのこと。「どこの国の親も同じだな」と思いました。

外国籍の子どもが全園児の約20%という私たちの園では、それぞれの母国の言葉を大切にしたいという思いから、月に2回、ポルトガル語でのふれあいの遊びの時間をもっています。

学童保育では、週2回、母語教育を行っています。ただし、日本人の子どもたちも一緒にやりたいということで、みんなで学んでいます。

子どもたちは、それぞれの国の文化、言葉に触れ合って、楽しいようです。

(ユリア/愛知県碧南市・第2へきなん保育園理事長)

### 「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp